

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	衛生学・公衆衛生学	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	杉浦 智子・関矢 稔	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	この科目では、衛生学・公衆衛生学が予防医学として発展してきた歴史や、個人の健康と公衆の衛生とが相互に関連する仕組みと意義を理解することにより、施術を行うために必要な資質・能力を身につけることを目標としています。	
到達目標	以下の説明ができることを目標とします。 プライマリーヘルスケア・予防医学・衛生行政、食中毒・栄養欠乏症・各種環境因子による疾患、公害及び地球環境問題、職業病・精神保健・母子保健、生活習慣病及び感染症対策・消毒、疫学・人口統計・衛生統計	
授業計画	前期計 (16週)	前期計 32時間
	第1章 衛生学及び公衆衛生学の意義 第2章 健康の保持増進と生活 第3章 生活環境と公害(生物学的環境因子を除く) 第4章 産業保健 第5章 精神保健 第6章 母子保健 期末試験 期末試験の講評	1 12 11 3 2 2 1
授業計画	後期計 (14週)	後期計 28時間
	第7章 生活習慣病と老人保健 第8章 感染症対策(生物学的環境因子を含む) 第9章 消毒法 第10章 疫学 第11章 衛生統計と人口統計 期末試験 期末試験の講評 復習	6 8 4 2 5 1 2
実務経験の有無 その活かし方	有	はり師、きゅう師免許
		はりきゅう施術所での実務経験を活かし、衛生上必要な知識やリスク管理、感染症対策について教授します。
成績評価の方法	前期・後期の学期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行います。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。授業の中で形成的評価を目的とした発問を随時行います。	
履修上の留意点	再評価試験については、出席要件を満たし、学年末成績が50点以上の場合のみ、行います。やむを得ない理由があっても、15分を超える遅刻や早退は欠席扱いとなります。	
自己学習の進め方	利用者の皆さんには復習を軸にした学習習慣の形成を期待します。	
使用教科書	配布資料	
参考書/参考資料	理療科用 疾病の成り立ちと予防 I 改訂9版 高橋昌巳・一幡良利	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床医学各論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	藤原 太樹	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	疾患ごとにその原因、症状、発症機序、検査、治療等、現代医学の知識と技術を学びます。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖学、生理学、病理学、臨総医学総論の知識に基づいて臨床医学各論を理解できる。 ・臨床実習及び卒後の臨床の場において活用することができる知識として疾患を理解し、説明することができる。 	
授業計画	前期計 (16週)	前期計 0時間
	別紙	
	後期計 (14週)	後期計 0時間
	別紙	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理教教育実施細則に基づき、前期・後期期末試験の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)	
履修上の留意点	1年次・2年時に履修した解剖学、生理学、病理学、臨床医学総論の知識に基づいた授業を行います。単元ごとに対応する各科目の事前復習を期待します。	
自己学習の進め方	解剖学や生理学及び臨床医学総論といった科目の知識を再確認しながら科目横断的な学習を行うとともに、復習を軸に自己学習を進めてください。	
使用教科書	生活と疾病Ⅲ(臨床医学各論)第4版 盲学校理療教科用図書編纂委員会	
参考書/参考資料		

(別紙) 令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床医学各論	
前期の授業計画	前期計 (16週)	前期計 48時間
	ガイダンス・説明	1
	第3章 消化器疾患	12
	第4章 呼吸器疾患	10
	第5章 循環器疾患	9
	第6章 血液・造血器疾患	8
	第7章 腎・泌尿器疾患	7
	期末試験	
	期末試験 講評	1
後期の授業計画	後期計 (14週)	後期計 42時間
	第8章 内分泌疾患	5
	第9章 男性生殖器疾患	3
	第10章 代謝・栄養疾患	5
	第11章 膠原病・膠原病類似疾患	5
	第15章 眼科疾患	4
	第16章 耳鼻咽喉科疾患	4
	第17章 婦人科疾患	4
	第20章 感染症	3
	第14章 皮膚科疾患	3
	第18章 精神科疾患	3
	第19章 小児科疾患	2
	期末試験	
	期末試験 講評	1

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	リハビリテーション医学	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	石田 亮介	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要なリハビリテーション医学の基礎的知識を施術に応用する能力と態度を修得する授業です。	
到達目標	障害を適切に評価し、その評価に応じた治療、訓練が選択できる。あはき施術で遭遇することが多い疾患に対して応用と実践ができる。	
授業計画	前期計 (16週)	前期計 32時間
	1 リハビリテーションの概要 2 障害の評価 3 リハビリテーション治療 4 基礎運動学 5 疾患別リハビリテーション (1) 脳血管障害 期末試験(筆記試験) 試験の解答解説	5 7 7 7 5 1
	後期計 (14週)	後期計 28時間
	5 疾患別リハビリテーション (1) 脳血管障害(つづき) (2) 脊髄損傷 (3) 脳性麻痺 (4) 切断 (5) 呼吸器疾患 (6) 骨・関節疾患 (7) 神経疾患 介助演習 国家試験対策 期末試験(筆記試験) 試験の解答解説	2 4 4 3 3 3 2 3 3 1
実務経験の有無 その活かし方	有	理学療法士
	理学療法士として病院勤務の経験を踏まえて教授します。	
成績評価の方法	前期末と後期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を学年末評価とします。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。授業の中で形成的評価を目的とした発問を随時行います。	
履修上の留意点	再評価試験については、出席要件を満たし、学年末成績が50点以上の場合のみ、行います。やむを得ない理由があっても、15分を超える遅刻や早退は欠席扱いとなります。	
自己学習の進め方	復習の時間を確保し、授業でまとめた要点を中心に知識の定着に努めてください。単に暗記するだけでなく、運動学的な意義を繋げて内容の理解にも努めてください。学習する中でわからないところは曖昧にせず、教科書を見直しして課題解決に努めてください。メールでの質問にも対応しますので、一緒に課題を解決しましょう。	
使用教科書	生活と疾病 I A リハビリテーション医学概論編(著者:太田淳一郎) 生活と疾病 I B リハビリテーション医学基礎運動学編(著者:福光英彦)	
参考書/参考資料		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	医療概論（社会保障制度及び職業倫理を含む）	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	鳥丸 大地	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	社会保障制度及び医療倫理、医学史についての基礎的知識を学びます。	
到達目標	社会保障制度について説明することができる。 生命倫理について述べるすることができる。 医学史について理解することができる。	
授業計画	前期計 (16週)	前期計 16時間
	①ガイダンス ②現代の医学と医療 ③社会保障制度 ④復習 ⑤期末試験 ⑥期末試験講評	1 7 6 1 1
	後期計 (14週)	後期計 14時間
	⑦社会保障制度 ⑧医療倫理 *職業倫理を含む ⑨医学史 ⑩復習 ⑪期末試験 ⑫期末試験講評	5 6 1 1 1
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期、後期ともに期末に筆記試験を行い、当該学期の評価点とする。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得の要件です。	
履修上の留意点	教科書を中心に進めます。	
自己学習の進め方	教科書の重要ポイントや国家試験によく出題される部分を中心に自分なりにまとめましょう。	
使用教科書	医療と社会（改訂第8版） 田中千章・不破伸一	
参考書/参考資料		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	東洋医学臨床論 (あはきの適応の判断を含む)	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	阿部 博明	
修得単位数	5単位	
年間授業時数	150時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	この科目では、臨床で遭遇する代表的な疾患に対して症状及び所見から病態を把握し、疾患の鑑別及びあはき施術の適否の判断と効果的な治療方法について学習します。	
到達目標	各主要疾患に対し、必要な診察及び治療の適否を判断、患者への説明ができる。効果的な施術と施術後の評価を行うことができる。	
授業計画	前期計 (16週)	前期計 80時間
	1. ガイダンス 2. 治療論 (総論、治療原則) 3. 疾患の鑑別とあはきの適応の判断及び症候別治療 (肩こり、頸肩腕痛、肩関節痛、上肢痛、腰下肢痛、膝痛、運動麻痺、頭痛、顔面痛、顔面麻痺、歯痛、眼精疲労、鼻閉、脱毛症、めまい、耳鳴り、咳嗽、喘息、胸痛、腹痛) (うち、あはきの適応の判断 15時間) *あはきの適応の判断	1 15 45
	4. スポーツ傷害の鑑別とあはきの適応の判断及び理療施術 (うち、あはきの適応の判断 4時間) *あはきの適応の判断	8
	5. 国試対策 (演習問題の実施、模擬試験問題の解説を含む) 6. 総括的評価 (中間試験・期末試験) 7. 総括的評価の解答解説	8 3
授業計画	後期計 (14週)	後期計 70時間
	8. 疾患の鑑別とあはきの適応の判断及び症候別治療 (悪心、便通異常、月経異常、排尿障害、ED、高血圧症、低血圧症、食欲不振、肥満、発熱、のぼせと冷え、不眠、疲労と倦怠、発疹) (うち、あはきの適応の判断 10時間) *あはきの適応の判断	48
	9. 高齢者の疾患に対するあはきの適応の判断及び理療施術 (うち、あはきの適応の判断 3時間) *あはきの適応の判断	8
	10. 国試対策 (演習問題の実施、模擬試験問題の分析を含む) 11. 総括的評価 (中間試験・期末試験) 12. 総括的評価の解答解説	10 4
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期、後期ともに中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。形成的評価として、各単元の終了時に問題演習を行います。	
履修上の留意点	再評価試験については、出席要件を満たし、学年末成績が50点以上の場合のみ、行います。やむを得ない理由があっても、15分を超える遅刻や早退は欠席扱いとなります。	
自己学習の進め方	この科目で習得する知識・技術は、すでに履修済みの解剖学、臨床医学総論、経絡経穴概論、東洋医学概論、理療臨床医学各論の知識を必要としますので、各科目の復習をしてください。また、授業の復習による知識の定着とともに、臨床実習などでの活用を通して、治療技術の向上を期待します。	
使用教科書	配布資料	
参考書/参考資料	臨床理療学(あはき師用東洋医学臨床論)(初版)オリエンズ研究会	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床診察学 (生体観察を含む)	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	阿部 博明	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な医療面接と生体観察を含む身体診察による臨床推論の実際についてを学び、施術を適切かつ効果的に行う能力を習得することを目的とします。	
到達目標	施術者として、適切な身体診察の知識と技術・態度を理解し、それらを説明・実践することができる。	
授業計画	前期計 (16週)	前期計 16時間
	1. 診察の概要 (医療面接)	1
	2. 生体観察を含む身体診察の進め方の概要 *生体観察	1
	3. 筋・骨格系症状の診察	
(1) 頸肩腕部の生体観察 *生体観察	8	
(2) 肩こりの診察	2	
(3) 肩関節痛の診察	2	
(4) 頸肩腕痛の診察	1	
4. 総括的評価 (期末試験)		
5. 総括的評価の講評	1	
	後期計 (14週)	後期計 14時間
	※ 3. 筋・骨格系症状の診察のつづき	
(5) 腰下肢の生体観察 *生体観察	3	
(6) 腰下肢痛の診察	3	
(7) 膝関節の生体観察 *生体観察	3	
(8) 膝関節痛の診察	2	
6. 自律神経症状の診察	2	
7. 総括的評価 (期末試験)		
8. 総括的評価の講評	1	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期、後期とも学期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。なお、形成的評価は授業中の発問により行います。形成的評価については、授業中の発問により行います。	
履修上の留意点	再評価試験については、出席要件を満たし、学年末成績が50点以上の場合のみ、行います。やむを得ない理由があっても、15分を超える遅刻や早退は欠席扱いとなります。	
自己学習の進め方	この科目で習得する知識・技術は、すでに履修済みの解剖学、臨床医学総論、理療臨床医学各論の知識を必要としますので、各科目の復習をしておいてください。徒手検査等の技術は、「体の動きのイメージ」と「身体で覚えること(反復練習)」が重要です。実習室で練習したい場合には、担当教官が立ち会いますので、遠慮なく声をかけてください。	
使用教科書	配布資料	
参考書/参考資料	臨床推論 ～臨床脳を創ろう～(錦房株式会社)	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床取穴学(生体観察を含む)	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	村松 芳容	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な取穴法を生体観察とともに学習します。また、治療に必要な選穴法及び配穴法についても学習します。	
到達目標	取穴を適切に行うことができる。 施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得している。	
授業計画	前期計 (16週)	前期計 16時間
	経脈の流注と取穴法、取穴姿勢	2
	切経と取穴技術の基礎	2
	配穴法の概要	1
配穴法の原則	1	
正経治療法	5	
奇経治療法	4	
期末試験(実技試験)		
講評		1
	後期計 (14週)	後期計 14時間
正経治療法		4
奇経治療法		4
太極療法		2
中医学弁証による治療法		1
その他の施術形式		2
期末試験(実技試験)		
講評		1
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師
	実務経験を活かし、施術に応用できる取穴や配穴のポイントを指導します。	
成績評価の方法	前期、後期ともに、期末に実技試験を行い、当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得の要件です。なお、中間期評価は学期評価への算入は行わず、授業への出席状況、実習中の態度、技能の習熟度を考慮した形成的評価を行います。	
履修上の留意点	再評価試験については、出席要件を満たし、学年末成績が50点以上の場合のみ、行います。やむを得ない理由があっても、15分を超える遅刻や早退は欠席扱いとなります。	
自己学習の進め方	臨床取穴学は、実技中心の科目であるため反復練習により「身体で覚える」ことが必要となります。そのため、授業時間外に少しでも多く反復練習の時間を確保してください。	
使用教科書		
参考書/参考資料		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	地域理療と理療経営	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	鳥丸 大地	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	地域社会における理療の役割と施術所経営を中心に基礎的知識を学びます。	
到達目標	社会保障制度について述べるができる。 施術所経営について説明することができる。 あはき師としての役割を理解することができる。	
授業計画	前期計 (16週)	前期計 32時間
	①ガイダンス	1
	②地域社会と理療	6
	③少子高齢社会の現状と課題	8
	④社会保障制度の体系	8
	⑤医療業務と社会保障制度	8
	⑥期末試験	
	⑦期末試験講評	1
	後期計 (14週)	後期計 28時間
	⑧理療経営の基礎	8
	⑨理療経営の展開	12
	⑩理療と就労	7
	⑪期末試験	
	⑫期末試験講評	1
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期、後期ともに期末に筆記試験を行い、当該学期の評価点とする。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得の要件のひとつです。	
履修上の留意点	教科書を中心に進めます。	
自己学習の進め方	教科書の重要ポイントを自分なりにまとめるようにしましょう。	
使用教科書	地域社会と理療経営 第4版 著者；藤井亮輔・福田 勉	
参考書/参考資料		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅう臨床実習Ⅰ・Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	村松 芳容・藤原 太樹	
修得単位数	4単位	
年間授業時数	180時間	
授業の方法	実習	
科目の概要 (授業科目の内容)	2年次までに習得してきた理療の知識・技術を応用して、医療面接や触診・徒手検査等により得られた情報から、はりきゅう施術の適応・不適応を判断する能力、適切な治療計画を立て、安全かつ効果的な施術を行う能力、施術や評価の結果をカルテに正確・明瞭に記録する能力、患者情報の守秘義務を遵守する人間性の獲得を目指します。	
到達目標	はりきゅう施術の適応・不適応を鑑別できる。 衛生管理、リスク管理を徹底し、患者様に危害を与えない安全な施術ができる。 医療面接→身体診察→病態把握→治療方針の立案までの流れを独力で言い、効果的な施術を実践することができる。	
授業計画	前期計 (16週)	前期計 96時間
	オリエンテーション	12
	患者への施術	84
	後期計 (14週)	後期計 84時間
	患者への施術	84
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期・後期の学期末に、別途配布する『臨床実習評価ガイドライン』に基づき、2名の実習担当教官が評価を行い、その平均(小数点以下は切り捨て)を学期末評価とします。実習補助員2名は、評価に関する助言を行います。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
履修上の留意点	日頃から頭髪や爪の手入れ等身だしなみに留意し、実習では清潔な白衣上下を着用してください。実習開始前までに衛生的手洗いを済ませ、ベッドにタオルシーツを敷く等の準備をしておいてください。	
自己学習の進め方	実習前日までに、担当する患者様のカルテを確認し、治療の方針・内容について担当教官の承諾を受け、施術に必要な予習をしておいてください。	
使用教科書		
参考書/参考資料		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧の歴史と理論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	渡邊麗恵	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	あん摩マッサージ指圧師として必要なあん摩マッサージ指圧の歴史と基礎及び臨床応用について学びます。手技療法による刺激の生体への作用と反応、期待できる治療効果について学習します。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. あん摩マッサージ指圧それぞれの歴史を知り、説明できる。 2. 手技療法の基礎的内容及び臨床効果を理解し、説明できる。 3. 手技療法のリスク管理を理解し、実践できる。 	
授業計画	前期計 (16週)	前期計 32時間
	ガイダンス (年間授業内容の説明、本科目の臨床実践や国家試験における位置づけ等) 第1章 あん摩マッサージ指圧の意義 第2章 あん摩 (基本手技の名称と機械的要素、各基本手技の適応部位、主な作用) 第3章 マッサージ (基本手技の名称と機械的要素、各基本手技の適応部位、主な作用) 第4章 指圧 (押圧の仕方による圧法の種類、各手技の適応部位、主な作用) 第5章 その他の関連する治療法 (カイロプラクティック、関節モビリゼーション等) 第6章 あん摩マッサージ指圧の臨床応用 (刺激の大小と生体反応、適応症と禁忌症等)	1 1 10 7 6 4 3
授業計画	後期計 (14週)	後期計 28時間
	第7章 リスク管理 (揉みかえし、骨折、転倒等の予防) 第8章 あん摩マッサージ指圧の基礎理論 (皮膚の受容器、伝導路等) 第9章 あん摩マッサージ指圧の治効理論 (機械的刺激による効果、反射作用を利用した効果) 第10章 関連学説 (ホメオスターシス、ストレス学説等)	6 10 6 6
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則24に基づき、各学期末に行われる期末試験 (筆記試験) の平均点 (小数点以下、四捨五入) を学年末評価とします。	
履修上の留意点	学年末成績が50点以上 (59点未満) の場合のみ、理療教育実施細則の規定により補習を行った上で再評価試験を行います。	
自己学習の進め方	授業時に確認した基本的事項をまとめたノートを作成します。	
使用教科書	基礎保健理療Ⅱ (保健理療理論) 改訂版 都立文京盲学校理療科研究会	
参考書/参考資料		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅうの歴史と理論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	鈴木 格・関矢 稔	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	はり師、きゅう師として必要な鍼灸の基礎及び臨床能力並びに歴史について学び、施術を適切かつ効率的に行う能力と態度を修得する授業です。	
到達目標	以下の説明ができることを目標とします。 古代医学と現在の刺法・灸法、リスク管理、鍼灸刺激と伝導・自律神経反射・鍼鎮痛機序、関連学説	
授業計画	前期計 (16週)	前期計 32時間
	1 鍼の基礎と歴史 2 基本的な刺鍼方法 3 特殊鍼法 4 灸の基礎 5 灸法の種類 6 鍼灸の臨床応用 7 リスク管理 8 期末試験(筆記試験) 9 期末試験の解答解説	4 3 4 6 4 6 4 1
授業計画	後期計 (14週)	後期計 28時間
	10 鍼灸の治効理論 11 関連学説 12 期末試験(筆記試験) 13 期末試験の解答解説	12 15 1
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師免許 あはき施術所での施術経験を活かし、実践を踏まえて教授します。
成績評価の方法	前期末と後期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を学年末評価とします。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。授業の中で形成的評価を目的とした発問を随時行います。	
履修上の留意点	再評価試験については、出席要件を満たし、学年末成績が50点以上の場合のみ、行います。やむを得ない理由があっても、15分を超える遅刻や早退は欠席扱いとなります。	
自己学習の進め方	復習の時間を確保し、授業でまとめた要点を中心に知識の定着に努めてください。単に暗記するだけでなく、東洋医学的・西洋医学的な意味を繋げて内容の理解にも努めてください。学習する中でわからないところは曖昧にせず、教科書を見直しして課題解決に努めてください。メールでの質問にも対応しますので、一緒に課題を解決しましょう。	
使用教科書	基礎理療学Ⅲ(新版理療理論)オリエンズ研究会	
参考書/参考資料	配布資料	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	課題研究	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	渡邊麗恵	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	あん摩マッサージ指圧師の国家試験に必要な解剖学・生理学に関する知識の復習と、過去の国家試験問題を用いた問題演習を行います。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造と機能の基礎的事項について簡潔に説明できる。 2. 解剖学の国家試験頻出問題を解くことができる。 3. 生理学の国家試験頻出問題を解くことができる。 	
授業計画	前期計 (16週)	前期計 0時間
	別紙	
	後期計 (14週)	後期計 0時間
	別紙	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則24に基づき、各学期末に行われる期末試験（筆記試験）の平均点（小数点以下、四捨五入）を学年末評価とします。	
履修上の留意点	学年末成績が50点以上（59点未満）の場合のみ、理療教育実施細則の規定により補習を行った上で再評価試験を行います。	
自己学習の進め方	事前に配布した課題を解き、授業に備えます。授業後は苦手な部分を把握し、関連事項をまとめるようにします。	
使用教科書	盲学校理療科標準教科用図書 解剖学 第2版16刷 盲学校理療教科用図書編纂委員会編・河野邦雄ほか 盲学校理療科標準教科用図書 生理学 第3版 9刷 盲学校理療教科用図書編纂委員会編・佐藤優子ほか	
参考書/参考資料	新版 経絡経穴概論 拡大版 第2版10刷 日本理療科教員連盟・公益社団法人	

(別紙) 令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	課題研究	
前期の授業計画	前期計 (16週)	前期計 16時間
	ガイダンス	1
	解剖学1 総論	1
	解剖学2 骨格系	2
	解剖学3 筋系	2
	解剖学4 消化器系	2
	解剖学5 呼吸器系	1
	解剖学6 泌尿器系	1
	解剖学7 生殖器系	1
	解剖学8 内分泌系	1
	解剖学9 脈管系	1
	解剖学10 神経系	2
	解剖学11 感覚器系	1
後期の授業計画	後期計 (14週)	後期計 14時間
	生理学1 生理学の基礎	1
	生理学2 循環	1
	生理学3 呼吸	1
	生理学4 消化と吸収	1
	生理学5 代謝	1
	生理学6 体温	1
	生理学7 排泄	1
	生理学8 内分泌	1
	生理学9 生殖・成長と老化	1
	生理学10 神経	1
	生理学11 筋	1
	生理学12 運動	1
	生理学13 感覚	1
生理学14 生体の防御機構	1	